



東北の星飛雄馬と  
称された高松投手  
の投球フォーム

時は東京同窓会の先輩たちからお世話になった。能代高には今後もいろんな形で活躍する人材が出てくると思うので、私も応援していきたい。

泉さん プロ野球12球団からスカウトがあったと聞いています。すべて断った理由は。

高松さん 私は身長177センチで体重が65キ。きゃしゃな体ではプロでは活躍できないだろうなと思った。社会人野球であったら、もしピッチャーで駄目になっても何か保証されるのではないかと考えた。

佐々木さん バントのサインを見逃したということですが、あとで監督に何か言われませんでしたか。

高松さん 監督の勝利インタビューでは、バントのバの字も出ませんでした。お前が投げて、打って、勝ってこいみたいな弁だった。勝者の弁は、いくらでも美しいものになるものですね。

大塚さん 当時の球速は、どれくらい

でしたか。

高松さん 140キロ台後半くらいかな。

山山さん 昔は、球速を測る機器はピストル型で、130キロ台後半以上の数値は出なかったのでは。私も社会人野球に進み、1年目の時、遠征で来た台湾のチームと試合をした。そのチームに、後に西武に入団する郭泰源がいたが、私の感覚では郭と球速は同じくらい。150キロ近くを投げていたと思う。

泉さん あの投球フォームはい

つからですか。

高松さん 1年生の秋の東北大会で東北高に負けて帰って来た後、太田監督に指導された。私としては目立つからいいかなという感じだった。あのフォームだったから、今でも皆さんに覚えていただいているのだと思う。

※能代高は昭和52年、53年に夏の甲子園に連続出場。52年の予選は秋田、青森

# 3年間は「人生の糧」に

泉さん 高松さんのお話はこのくらいにして、それでは、皆さんに高校時代の思い出を語っていただきたいと思えます。大谷さんからお願します。

大谷さん もう60年前の話です。高校時代の16、18歳の頃が、今までの人生の基盤になっていると高松さんが話していたが、私も同感です。17歳のそのままの自分が今も続いている感じがする。私は新聞部だったので、階段の下に部室があった。そこで毎日くだらないことをしゃべっていた。

当時は1学年が450人くらいで、女性が18人くらい。山田久志さん(元プロ野球選手・監督)が隣のクラスでした。体育の時間は、女子にとっては遊びの時間。樽子山の校舎には女子トイレがなく、職員トイレを使わせてもらった。持参したお弁当は、中庭にあった小さい部室のような所で食べていた。制服はありましたよ。ジャンパースカートにブレザー。当時は格好良いなと思っていました。

卒業後は、京都の立命館大学に進んだ。あの頃は全共闘運動が盛んで毎日デモをやっていた。そんな時代でした。自宅は京都にあります。46歳で能代に戻ってきて、能代と京都の2拠点生活が30年ほど続き、今は能代に腰を落着けたことになりましたね。

佐々木さん どうして能代高に入ろうと思ったのですか。

大谷さん 私は淳城幼稚園、淳一小、能代一中卒。ほとんどの友達は能代北高に



OB 6人が高校時代の思い出などを語り合った座談会

西村さん 私は、樽子山の旧校舎には3年生の秋まで通い、その後高松の校舎に移った。真冬の2、3カ月は農道をひたすら歩き、学校に着いたときには、たろつべが下がっていた。感動したのは、校舎にスチーム暖房があったこと。樽子山の校舎は薪ストーブで、冬は校舎に入ると廊下に吹きだまりができていたし、教室も暖かかったのは薪ストーブのある一番前だけ。

思い出すのは、入学後の新入生を集めた校歌や応援歌の練習。応援団が怖くてね。でもその時歌った応援歌は母校愛につながっている。十里強歩の出発前に歌った校歌は、歌声で体育館が震えるほどだった。森岳を女子が発する前に着きたいと必死に走ったが、追い付けなかった。

大谷さん 私たちの頃の十里強歩は、

女子も同じコースで、出発時間が1時間早かった。

泉さん 軟式野球はどうでしたか。

西村さん 全国大会ベスト8で国体が3位。樽子山に軟式のグラウンドがなく、中川原の秋木グラウンドで練習したが、周囲の住民からうるさいと苦情がきた。それで、中川原の河川敷グラウンド

に進んだ。市内では、私一人なのかもしれない。他の女子生徒は皆さん文武両道の優秀な方々で、私は不良少女でした(笑)。毎日遅刻していた。よく卒業させてくれたと大山(行夫)先生には感謝している。

泉さん 高校時代の思い出となれば、基本的に野球のことしかない。授業中は寝ていたし、テストで赤点を取り、金谷部長に呼ばれて叱られ、教室に戻ると、今度は太田監督に呼び出されて叱られ、ダブルパンチだった。

3年生の時は、本県高校野球史上初の夏の甲子園予選3連覇がかかっていた。それはいまだに成し遂げられていない。その中で最も印象深いのは、金足農との準々決勝。雨降りの泥んこの中、まるで田んぼで野球をやっている感じだった。うちがリードしていて、8回コールドで勝ちベスト4に進んだ。そうしたら、金足農の応援席から卵が飛んで来るわ、物が飛んできて、すごかった。八橋球場の応援席はブロック製だが、どうやって壊したのかブロックも飛んできた(一回ネー)。)

ベンチから出られない状態になって1時間くらい足止めにされた。球場のセンター側の扉が開いてパトカーが入ってきた。警察に警護されるように帰った。駅前の旅館に着くと、もうくたくた。ユニホームを洗うのめかなわず干すだけ。翌日の準決勝は泥だらけのユニホームで戦った。何が何だか分からないうちに大館商にやられてしまった。昔から能代と金足農は因縁の対決と見られていた。今だから、大変な事になっていったでしょうね。絶対に忘れられない試合です。

あと、先ほど水が飲めなかったと言いましたが、3年生の時、八橋球場のベン

チに水が入った大きなバケツが置かれていた。水が飲めるぞと喜んでいたら、そこにバットが全部入れられた。昔の金属バットは暑さで変形するらしく、防止策のバケツであった。がっかりしたことを今でも鮮明に覚えている。

大塚さん 私は昭和59年の入学で、59秋田インターハイが開催された年です。そして、学年に唯一のH組があった。能代高の教室は1年が3階、2年が2階、3年が1階だが、H組は3年間、正面玄関の真上に教室があった。私はH組になったことはないが、急ぎよつくれた教室で、1年生の時は2年生と同じフロアなのでなかなか外に出られず、その分クラスの間意識が強かったと聞いている。人が多い学年だったので、いろんな人と関わる事ができた。彼も頑張っているから俺も頑張ろうとお互いに影響を受けながら成長できた。人が多い分勢がある学年だったと思う。

今でも印象にあるのは、学校祭の時の自在の像のふんどし。あれは、いつからなのか分からないが、登校してきたら像がふんどしを締めていた。私の学年では赤ふんどしだったと思う。

泉さん それは私の一つ上の47期生が始めたそうです。続きまして佐々木さんお願いします。

佐々木さん 私は、1年生の秋に能代高に転校してきた。秋田の間ではなかったけど、親の都合で引越してきた。それまで徳島の暖かい所について、雪を見たことがなかった。9月に形ばりの入学試験を、前の高校の半袖のセーラー服姿で試験を受けたが、すごく寒くて。天気も途中でみぞれみたいなのが降ってきて、何とおそろしい所に来たのだろうと思っ

た。すぐに友達もできて、楽しい高校生活でした。2年生の時は「高校生ライズ」に出た。能代高から3チームくらい出た。福島であった東北大会に青春18きっぷで行って、絶対勝てると思っていたら途中で負けてしまった。同級生たちとは今でもその時の話になる。

私は東京の大学を卒業して、映画やドラマをプロデューサーする仕事に就いた。戻ってきて、縁あってNPO法人ミライ10の能代市民活動支援センターのセンター長を9年務め、つい最近辞めた。かつてプロデューサーした映画「亀は意外と速く泳ぐ」がデジタルリマスターされ、東京でリバイバル上映されたこともあり、またプロデューサーの仕事に復帰しようかと思っ

た。高校時代は、テニス部でもあったが、自転車通学の途中で大瀬の書店兼レンタルビデオ店のがりばあに毎日寄り、立ち読みしたりビデオを借りた。将来は芸能の仕事を目指していたし、その当時は監督になりたかった。そう思うと、高校でやっていたこと、友達とやっていたことは、大人になってもそのまま引きずっているのだと思う。文化というものも戻って来るところがあって、ゼロ年代につくった作品が、今の10代の若い人たちに流行っている。自分たちの親の世代のことなのに、懐かしがられているのかもしれない。